

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集1

One Purposeを胸にチームを支える
〜サポートスタッフたちの課外活動

特集2

One Purposeを胸にチームで頂上を目指す

●同志社人訪問

マツダ株式会社 常務執行役員

藤原清志さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。



▶ 特集1

One Purposeを胸にチームを支える

～サポートスタッフたちの課外活動 ----- 2



▶ 特集2

One Purposeを胸にチームで 頂上を目指す

----- 7

SEMINAR ～ゼミ探訪 学びの時間～ ----- 9

政策学部 川井 圭司 ゼミ

同志社の研究は今 ----- 11

犯罪学研究センター 川本 哲郎 法学部教授

来年度就職を目指す皆さんへ ----- 13

CAMPUS NEWS ----- 15

アスリート食プロジェクト 始動／平成27年 司法試験合格者発表／熊本キャンプを開催／先端的教育研究拠点「赤ちゃん学研究センター」キックオフシンポジウムを開催／同志社ハリスフォーラム2015「生物多様性を植物、動物、菌類の多様性から考える」／第1回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム開催／本学教員の執筆図書紹介／同志社大学 東日本大震災被災学生支援募金の事業終了について

留学生紹介 ----- 19

フェリックス・シュナイダーさん(チュービンゲン大学同志社日本研究センター)

INTERVIEW ～同志社人訪問～ ----- 20

マツダ株式会社 常務執行役員 藤原 清志さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～ ----- 23

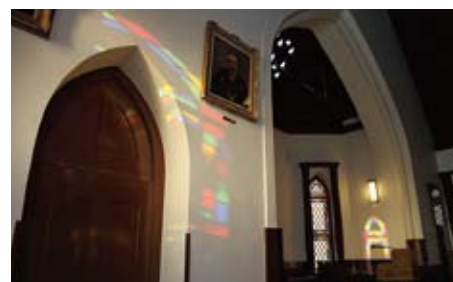
- ・田淵 良敬さん(2002年 商学部卒業)
- ・中野 恵子さん(1999年 法学部法律学科卒業)

ANNOUNCEMENT ----- 25

MY PURPOSE ～挑戦する人～ ----- 27

「第4回カレッジフラ・コンペティション2015 ソロの部優勝」～初めての競技会への挑戦で栄冠をつかむ～
・都竹 絢子さん(文学研究科博士課程(前期課程)2年次生)

表紙の情景 [同志社礼拝堂のアーチ窓]



同志社礼拝堂の東側と西側にはアーチ窓があり、木の枠組みに色ガラスをはめてつくられたステンドグラスが輝く。1886年の竣工当時は大変珍しく、小説家の徳富蘆花は作品の中で、そこから差し込む柔らかな光を「五色の光線」が降ると形容した。左の写真のように、今も礼拝堂内には息をのむほどカラフルな美しい光が映る。

さらに夕日が入る時には西側のステンドグラスの鮮やかな光が東側のアーチ窓に映り込み、建物の外からも表紙のような幻想的な色合いを見ることが出来る。



— 特集 1 —

One Purposeを胸に チームを支える

～サポートスタッフたちの課外活動

同志社大学には今、400を超えるクラブ・サークルがあり、学生のおよそ7割が課外活動に励んでいる。その自主的な活動を通じて、学生たちは仲間との交友関係を育み、一つの目標に向かうプロセスの中で“同志社人”としての高い人格を形成していく。同時にそこでは、コミュニケーション力、対人力、忍耐力、決断力、そしてチームワーク力等、社会へ出たときに必要な能力を磨いている。今回の特集では、特に体育会に所属する団体スポーツにフォーカスした。だが、焦点を当てるのは第一線で活躍する選手ではなく、その活躍を支えるマネージャーやトレーナー、学生コーチといったサポートスタッフたち。試合ではスポットライトを浴びることのない彼ら、彼女らは、日々どのような活動をし、そこにどのようなやりがいや意義を見いだしているか、座談会を通して明らかにしたい。



早坂 和晋
硬式野球部 学生コーチ

片山 歩美
サッカー部 トレーナー

郡 悠希
バスケットボール部 主務

猪飼 良
ラグビー部 テクニカル



プロスポーツのような 役割分担

尾嶋●今日は選手ではなく、選手を支える立場にいる皆さんに、部でどういう役割を担い、そこどのようなやりがいを感じているのか、また日頃抱えている思い等についても聞かせていただきます。最初に、自己紹介をお願いします。また、それぞれの部の部員数と選手以外のスタッフにはどんな役割があつて何人くらい在籍しているのかもあわせて教えてください。

早坂●硬式野球部で学生コーチをしています。部員は4年次生を含めて170人近くいて、スタッフはマネージャーが10人、トレーナーが7人、学生コーチは私1人です。監督は1人で、コーチは常任が1人臨時で来ていただいている方が2人います。
片山●私はサッカー部の学生トレーナーです。主な仕事はけがの処置や練習前のアップ、試合後のクールダウン等フィジカルの部分でのトレーニング指導が中心ですが、選手の健康管理もしています。部員は約130人で、指導をしているのが監督1人と外部からのコーチが3人。学生コーチが2人いて、マネージャーが10人、トレーナーは私を含めて4人です。
郡●バスケットボール部の主務を務めています。選手は29人、マネージャーは私を含めて7人います。そのうち2人は関西

学生バスケットボール連盟(学連)で試合の運営等に携わっているのですが、実質、毎日の部活にいるのは5人です。指導しているのは監督が1人、アシスタントコーチが1人、トレーナーは2人です。

猪飼●ラグビー部は今170人の部員がいて、スタッフは33人。私は皆さんとは少し違い、テクニカルという分析の仕事をしています。練習のビデオ撮影のほか、試合のビデオを撮りプレーの詳細をまとめたのプレーの特徴等を分析したりしています。テクニカルは全員で9人。そのほかにトレーナーが12人、マネージャーが7人、学生コーチも5人います。

尾嶋●以前はスタッフといえばマネージャーだけだったのが、今はコーチ、トレーナー、そしてテクニカルといった新しい役割が増えています。プロに近い役割が学生スポーツにも加わってきているという印象ですね。それでは、担当するようになったきっかけを教えてください。

猪飼●大学に入って1年間は選手としてプレーしていました。同志社大学のラグビー部には、全国から実力のある選手が集まってきました。その中で実力的に自分には届かないと思い、監督と相談してスタッフとしてチームをサポートすることにしました。

郡●私は中・高とテニスに励み、大学では

マネージャーとして選手を支える立場になってみたいと思っていました。バスケット観戦が好きだったため、バスケット部のマネージャーになりました。

片山●私も中学はバスケット部、高校ではテニスをしていました。もともとスポーツや健康に興味があつてスポーツ健康科学部に入学したので、授業で得た知識をすぐに実践の場で生かしたいと考え、トレーナーの立場で選手をサポートすることにしました。

早坂●小学校1年で野球チームに入った頃から、甲子園でホームランを打つことが目標でした。高校時代にその夢を達成することができ、大学で野球部に入ったものの、どうしてもそれまでのようなやる気が出ませんでした。そのため、学生コーチとしてチームに貢献しようと、2年次の夏で選手から退きました。

尾嶋●学生コーチは具体的に何をすればいいですか。

早坂●ノックを打つことがメインで、試合では三塁ランナーコーチを務めます。練習のメニューを決め、フォームについてアドバイスをしたり、チームをまとめたりすることも仕事です。私が大事にしているのは、本気でチームのことを考え、時には真剣に怒ることで、チームの皆が「やらないといけない」と引き締まる雰囲気をつくること。監督がいつもグラウンドにいるわ

けではないので、自分が少しでも監督のサポートをできたらとも思っています。

うまくいって当たり前

尾嶋●今まででうれしかったこと、失敗したこと等、最も印象に残っていることを聞かせてください。

早坂●秋のリーグ戦の大事な試合で負けて、優勝の可能性がなくなってしまった試合が一番印象に残っています。全国大会に行くという強い思いでやってきたので、とても悔しかった。狙い球を絞るとか、タイムをとって選手に声をかけるとか、あのときこうしておけばよかったという悔いばかりが残っています。

片山●一つ上に、将来プロトレーナーとして働くことを目指している先輩がいま。彼は、取り組み方や姿勢が違い、選手からも尊敬され、信頼されています。私はその先輩を間近で見ていると、自分の方が劣っているとわかっていても、どこかで負けたくないという思いがありま



た。私たちは選手がけをしたときにテーパーングを巻くのですが、テキスト通りに巻くだけではなく、けがの場所によって巻く角度を変えたり、オリジナルの巻き方をしたりすることも必要です。あるとき、けがをしている選手に、私が自分なりに考えた巻き方をしたところ「痛みが少なかったの、また同じように巻いてほしい」と言ってもらえたときは、少し先輩に近付けたような気がしてうれしかったですね。

尾嶋●マネージャーはうまくいったとどこで感じるかというと、難しいですよ。**郡**●バスケット部では役割を分けていないので、マネージャーが部の運営に関わる全てのことをします。それらは、基本的にうまくいくのが当たり前なので、責任重大です。1年ほど前試合で戦うのはあくまで選手で、私はマネージャーとして、試合に勝つために何ができるのかわからなくなった時期がありました。そんなとき、試合前に「頑張ってください」と選手に声をかけたところ「いや、一緒に戦うんやろ」という言葉がかえってきたのです。チームの一人として見てもらっていることを実感し、とてもうれしかったです。私たちは選手を支えるのが当たり前だと思っていていますが、些細なことに選手が「いつもありがとう」と言ってくれると、報われた気がします。

尾嶋●2年次のときはテクニカルを始めてまだ日が浅く、敵チームの分析をしても、なかなか耳を貸してもらえませんでした。自分自身の実力不足もあるのですが、おそらくそこまでの信頼関係がなかったのでしょうか。私がやっていることは試合の勝ち負けに直接関わってくるので、われわれのデータ分析の責任はとても大きいです。だからこそ信頼関係が重要です。選手が良い判断をできるような情報を的確にそろえる。自分の主観を入れずに客観的に見たことを伝えて、選手に戦術提案をする。データは誰でも取れるのですが、それをいかに使える情報にするかが大事だと考えています。

チームを見る位置

尾嶋●マネージャーとして、あるいはトレーナー、コーチとして大切なことは何だと思えますか。

郡●関係各所と調整して、選手は時間通りに体育館に来るだけですぐに練習が始める環境をしっかりと整えておく。選手がバスケットだけに集中できる環境をつくることを、私たちは一番大切にしています。

片山●トレーナーの一番重要な任務はけがの予防なので、選手が自分自身でケアをしながら、100パーセントの状態ですぐに臨めるように指導していくことが大切だと考えています。選手がトレーナーに頼ってばかりいる状況は好ましくありません。例

尾嶋 史章

【学生支援機構長・副学長
社会学部教授】



えはストレッツにしても、自分でせずにごトレーナーに頼む選手がいるのですが、そういう選手はトレーナーがいなかったらけがをする確率が高くなります。全ての選手がトレーナーに頼らず、セルフケアでできるようにサポートすることが、根本的に大事なことだと思っています。

早坂 ● 郡さんと同じように、コーチとして



猪飼 良

〔理工学部数理システム学科 4年次生〕
ラグビー部テクニカル



郡 悠希

〔生命医科学部医情報学科 4年次生〕
バスケットボール部主務

も選手にチーム運営のこと等を考えさせないようにして、野球に集中してもらえら環境をつくるのが重要です。ポリシーは、選手に弱みを見せない。チームのことで悩んでいても、そういうところは周りの人に見せないというのを大切にしています。

尾嶋 ● それぞれの役割を担って身についてたこと、得たことはありますか。

早坂 ● 私は将来高校の教師になり、今度は自分が監督として野球部を甲子園に連れて行きたいと思っていますので、監督に近い視点でチームを見たり、一人ひとりの個性を見ることができるようになったりしたことは大きな進歩です。

尾嶋 ● 一歩引いた立場で物事を見ることのできるようになったということですね。

片山 ● 直接トレーナーの仕事とは関係はないのですが、チームを客観的に見ることで多くなったので、雰囲気の良い悪い、集中しているかいないかがわかるようになり、チームプレアの難しさを特に感じるようになり、今サッカー部は2部で、1部への昇格を目指しているのですが、選手の中には高校時代に全国大会に出た選手がいるにもかかわらず、今まで負けたことのない格下のチームに負けることがあります。それはなぜなのか疑問に思うことは、チームとしてまとまっていないのが理由なのか...多角的にチーム全体の状況を見られるようになった点は、これから社会に出ても役に立つのではないかなと思っ

ています。

自分より選手、チームのために

猪飼 ● 私の場合、単純にパソコンに強くなりました(笑)。専用のソフトを使って動画編集をし、ミーティング用の映像をつくるのが苦もなくできるようになりました。また分析結果を相手に自分の言葉で伝えるという経験から、コミュニケーション能力も身についています。

尾嶋 ● では、自分自身でも、チーム全体でも構いませんので、皆さんの目標を聞かせてください。

猪飼 ● 私たちに求められるのは、自分がこれだけやったから満足だというのはなく、最終的には選手のために「役買いたい」という気持ちです。あくまでチームが勝つための仕事をすることが、自分自身の目標です。

郡 ● 頑張ってきた4年次生が悔いのないよう自分たちらしいバスケットをして引退するというのが、私の一つの夢です。8人

いる4年次生全員が試合に出て、それぞれがベストを尽くして勝利する試合が一つでも多くあればと思っています。

片山 ● チームの目標は1部に昇格することなので、負けられない試合がずっと続き、選手たちはみんな緊張感の中にいます。厳しい戦いをしていって、選手の気持ちとは反対にけが人が多くなっており、出場したいのにけがで出られない選手を見るのは本当に辛いです。そういう選手を一人でも減らすのがトレーナーの仕事。選手たちをけがから守り、しっかりとケアをして、最後のリーグ戦を乗り切るのが今の目標です。

早坂 ● 新チームになったら神宮大会には絶対出場したい。そして、出るだけではない、勝つチームをこの冬でつくっていかたいと思っています。実力、技術としては他の大学に負けていません。メンタル面で実力を出し切れていないという現状があるので、練習で「こういうことをやってきた」という誇りになるものを積み上げていければと思っています。

尾嶋 ● これまでやってきたことが将来どのように役に立っていきと感じますか。

早坂 ● 教師になりたいのですが、課外活動役に立つと知っているのですが、課外活動はもちろん、授業のクラスでも一人ひとり目を配れるようになったのではないかなと思います。



片山 歩美
【スポーツ健康科学部 4年次生】
サッカー部トレーナー



早坂 和晋
【商学部 3年次生】
硬式野球部学生コーチ

片山●トレーナーとして学んだことは大きく分けて2つあります。一つはチームのまとまりが結果を左右するということです。社会に出てもチームで一つの仕事をすることがあると思うし、チームの人たちとの意思の疎通、連携を大切にしないとイケないと思っています。もう一つは選手への気持ちにいかにか近づけるかということ

す。けがの痛みは、いくら説明されても自身がそれを感じることはできませんから、選手の気持ちに寄り添って痛みをわかってもらうことを大事にしてみました。社会に出てからも、相手が何を求めているかを第一に考えて仕事をしていければと思っています。

郡●私たちがマネージャーは、監督や選手からの要望に応じることはもちろん、何を求められているのかを瞬時に判断することも重要です。監督や選手が何をしてほしいのかを考え、プラスアルファの仕事することが大事なので、そういうところは社会人になって生かしていけると思います。

猪飼●私も教師を目指しているのですが、スタッフとして関わったことでチーム全体を見ることができたし、どのようにチームを運営していけばいいのかがわかりました。分析すること、その結果を情報として伝えること、その2つを使って生徒にラギーを楽しんでもらいながら勝つチームをつくりたいですね。

かけがえのない存在。場所

尾嶋●最後に、皆さんにとって課外活動とは、一言で言うとなんかどうでしょう。

猪飼●生活の中心ですね。学生なので、もちろん勉学にもしっかり励んでいます。時間割や友人との約束等、部活動を軸に他の全てのことを考えます。

郡●私たちはマネージャーとしてプレイヤーを支えることが仕事なのですが、私自身、選手に支えられていると思うことがとても多かったです。ですから、仲間がいる場所という気がします。

片山●学ぶことがたくさんあるので、修行の場所でしょうか。中・高の部活ではメンタルを鍛えられましたし、今の自分の全てをつくってくれた場所ですね。

早坂●私は野球を課外活動と捉えたことありません。野球を始めたのが4歳のときで、中・高・大と野球とともに歩んできたので、切っても切り離せない人生そのものという感じです。

尾嶋●課外活動で、特にスポーツ系はどうしても選手がクローズアップされがちですが、ここまで話を伺ってきたように、サポートに徹する選手以外の多くの学生がいて成り立っています。その中でそれぞれの役割があり、重要な使命を果たしているというのが、今日の話でよくわかりました。スタッフとして関わる中で、チームが優勝する、いい成績を収めるということには、支えている方にもやりがいになっていて、様々な経験を通して大きく成長している場になっているということだろうと思います。皆さんがそれぞれの経験から得たものを糧に、社会に出てさらに活躍されることを期待しています。本日はどうもありがとうございました。





決意

「来年、未踏峰登頂にトライします！」
北西ネパールのチャンラ峰への初登頂
(2010年)以来、5年ぶりとなる同志社大

学山岳部のネパール未踏峰への挑戦は、2014年10月、OB総会の席で仙田裕樹さん(理工学部環境システム学科4年次生)が発したこの一言が始まりだった。

「5年前に先輩が成し遂げた未踏峰登頂は私たちがとって憧れでした。情報などがどこにもなく、地図だけを頼りに、どういうルートを通り、どのような動きをすれば成功に近づけるのか。想像力を働かせるのが、未踏峰登頂の醍醐味なのです」と言う仙田さん。

呼びかけに集まったメンバーは4人。齋藤慎太郎さん(文学部哲学科4年次生)、玉置悠人さん(経済学部4年次生)、宇野悠真さん(経済学部2年次生)、そして女子学生の高伽耶さん(文学部美学芸術学科4年次生)。

経験豊富な先輩の協力を仰ぎ、翌2015年2月11日、前年に解禁されたばかりのアイチエン峰への海外遠征を決定。4月初旬には概要をまとめた計画書を作成した。ネパールを大地震が襲ったのはそのようなときであった。計画通り遠征ができるのかどうか、現地状況を把握しなければならぬ。6月4〜17日の2週間、仙田隊長と高隊員がカトマンズの被害状況の調査とともに、同志社大学山岳部と山岳会(同部OB会)が10年前から建物寄贈等で関わりを持ってきた現地の学校「カムジュンスクール」の視察に赴いた。結果、西ネパールの被害は軽微ということが判明し、遠征決行を決定。同時に、遠征の一環としてカムジュンスクールに校舎修復費用の支援を行うことも決めた。

頂上へ

8月3日、日本を立ち、カトマンズに着く。現地スタッフとの計画確認、観光省への許可申請等を行い、10〜13日、基点となる町シミコットへ移動。食材や燃料、荷物を運ぶのに欠かせないカチャル(馬)等を確保し、17日、ベイスキャンプ(B)を張る地点までのキャラバンが始まった。約50kmを9日間かけて進む。

スタート地点ですでに標高は3000m。途中、4280m峰に登って高所順応を実施。事前に富士登山等で高所対策をしていたものの、隊員の中には高度の影響を受けだす者も出てきた。「頭痛や吐

き気等の、高度障害が出てくるのですが、それでも登頂するには進まないといけませんから、とにかくゆっくりでも歩き続けます。それがつらかったですね」と、メンバー最年少ながら、同志社高校時代から山岳部に所属し、隊では最も経験豊富な宇野隊員が振り返る。

25日、BC地点に到着。標高4600m。すでに富士山頂より800m以上高い。テントを張り、登頂成功を願ってブジャ(祈祷)を行う。ヒマラヤ登山には欠かせない儀式だ。29日、C1(第1キャンプ:5200m)構築。BCから6kmほどの長い丘に登る。ここから



BCで行ったブジャ(祈祷)

仙田裕樹
理工学部環境システム学科4年次生



はネパールスタッフと別れ、学生メンバーだけの行動になる。そして31日、さらにガレ場が続く約4kmの道なき道を進み、アタックキャンプ(A)設営地(5600m)に着く。ここで初めて、目指すアイチエン峰を目にした。「感動しました。アタックキャンプに着くまでは衛星写真しか手がかりがありませんでした。そして、実際に望むまではアイチエン峰も、付近に見える山のごとく茶色で、砂山のような山ではないかと、とても心配していたのですが、全く違いました。雪を頂いた美しい姿が目の前にそびえ立っていたのです」と、仙田隊長が今そのときの興奮を抑えきれない表情で語る。

山岳部極西ネパール遠征隊 未踏峰アイチエン峰(6055m)初登頂に成功!



AC設営地で

同志社大学体育会山岳部の学生5人が今年8月3日〜10月12日、極西ネパール遠征を敢行。西ネパールのフムラ郡チャンワタン山域に位置する標高6055mの山、アイチエン峰の登頂に挑んだ。9月3日13時12分(現地時刻)、仙田裕樹隊長が指揮する1次隊4人が、無事初登頂に成功した。下山後には、4月に発生した大地震で被害を受けたクムジュン村の学校を訪問し、遠征のもう一つの目的であった義援金の贈呈を行った。



氷結した斜面を登る

通り過ぎてから知った。雪で覆われていたため、全く気づかなかつたのだ。落ちればまず命はない。文字通り、背筋が凍った。
頂上直下の斜面は表面の雪が10cmほどしかなく、その下は硬い氷。アイゼンがなかなか突き刺さらない。アイスクライム、氷結した絶壁を這い登って行った。頂上稜線の南北

いよいよ頂上へのアタックである。玉置隊員の体調が万全でないことから、1次、2次の2回に分けて登頂を試みることに決定。
9月3日、絶好の晴天の中、1次隊(仙田、齋藤、高、宇野)が西のピーク(5955m)を經由して、西稜から登る。当初は北壁からの登攀を計画していたが、想像以上の絶壁であったことから、リスクを避けるためにルートを変更したのだ。
だが、より安全な稜線伝いに登っていったものの、途中には50度ほどの経験したことのない傾斜があり、右側は切り立った崖。足を踏み外すと、はるか下方にある湖まで一気に滑り落ちてしまう。さらに、西側ピークの登攀途中、とてつもなく深いクレバス(割れ目)が大きく口を開けていたことを、



頂上へ到達。感動が込み上げる

両端は切れ落ちていて下が全く見えない。そして、徐々に稜線が狭くなる登りが続いた後、突然それが途絶えた。13時12分。頂上に着いたのである。
「そこから見た景色は、まさにそれまで人類が一度も目にしたことのないものでした。ここまで頑張ってきて良かった、心の底からそう思いました。約70年前、私たちの先輩が登頂したサイバルという7000m級の山を見ることもできて、時空を超えて歴史が繋がった瞬間でした」
遠征隊の登頂成功を祝福するかのようになり、仙田隊長たちの頭上には、どこまでも続く青い空が広がっていた。



登頂成功をSUCCESS CAKEで祝う

復興を

仙田隊長と玉置隊員による2次アタックも8日に成功。11日、BCから来た道を引き返すバックキャラバンを開始し、16日にシミコットに帰着。18日にはカトマンズまで帰ってきた。



クムジュンスクールで義援金を手渡す

今回の遠征の重要なもう一つの目的地、クムジュン村へ向かったのは10月2日。
クムジュンスクールを訪問し、震災の復興支援のための義援金を手渡すためだ。5日、山岳部OBの和田さん、今成さんと合流し、仙田隊長と高、玉置隊員の3人は学校へ到着。先生や生徒たちによる盛大なセレモニーで迎えられ、胸を熱くした遠征隊メンバーは、集めた義援金をしっかりと学校の代表者に手渡した。

そして10月12日、全員が晴れ晴れとした表情で帰国。山岳部の5人にとっては初めての海外遠征、多くの人と出会い、かけがえない経験を積んだ。仙田隊長は遠征を終えて感じた思いを、次のように語っている。
「当初、いろいろな経験がしたいという意味もあって取り組んだ遠征ですが、想像以上に様々な経験ができました。そしてメンバー全員、人間として一回りも二回りも成長できたと思います。今回の遠征のために、OBを始め、たくさんの方々が全力でサポートしてくれました。今後はこの遠征を見て憧れを持って山岳部に入ってくれる人たちが、私たちがサポートする番です。未踏峰の頂上から景色を眺めると、さらなる未開の地が望めました。次のステージは、私たちの意志を継ぐ後輩たちに託そうと思っています」



宇野 悠真

【経済学部2年次生】

スポーツ法の学びを通して、 失敗を恐れない価値観を共有する

議論を活性化する車座の授業

新町キャンパス・臨光館209番教室。部屋に入ると、机が脇へ片付けられ、20人ほどの学生が中央で車座になって和気藹々と議論していた。担当教員の川井圭司教授の姿も、その中にある。所属する学生が4〜5人の小規模なゼミでは珍しい光景だ。川井教授にまず、なぜ車座で授業をするのか、その意図を聞いてみた。

「前に机があるより、議論が活発になるのです。メモを取りにくいというデメリットはありますが、前の人との距離も近くなり、いい空気ができてきます。意見が分かれるときには、賛成、反対が対峙して座り、悩んでいる学生がそれぞれの意見を聞きながら、席を移動する等して、より議論が白熱していくのです。」

一人の学生が司会役となり、授業を自由に進行していくのも、このゼミの特徴だ。発表の時間配分を司会の学生が管理し、まとめのコメントまで任される。さらに、次の授業で司会を誰が務めるかは、その日の司会者が決める。指名された人は、1週間間に授業の組み立てを考える。そのような形で、全員が司会を経験していく。「自らが授業を進めるという主体性と、そこに生まれる責任感こそがゼミを高みに導く原点になっている」と、川井教授は話す。

加えて、議論の中で、なるほどという意見や新たな発想が学生から出たときは、誰からともなくスタンディングオベーションが始まる。この習慣は学生が自発的に始め

たもののだそうだ。「拍手があると盛り上がるし、みな楽しくポジティブな気持ちになるので、非常に良い効果がありますね」と、教授もうれしそうに笑う。

学生が「こうしたい」という 意思を反映する

ゼミは2年次の秋学期から始まる。川井ゼミは、一人15分の持ち時間で自己紹介をすることからスタートする。約束事はただ一つ。聞き手を飽きさせないこと。これが最初のプレゼンテーションだ。「自分をさらけ出すことで、学生同士の垣根がなくなり、関係が一気に親密になります。これは議論を深めていくための重要なウォーミングアップなのです。」

その後は、4〜5人のグループに分かれて、自分たちの研究テーマを設定し、発表していく。3年次の春学期までその形で行い、秋学期からは原則として学生がそれぞれに関心を持っているテーマをピックアップし、1人ずつのプレゼンになる。ただ、複数で組んだ方がより内容の濃いものになると判断

川井圭司 〔政策学部教授〕





した場合は、単独でなくとも構わない。

川井教授は、学年ごとの個性やモチベーションに合わせて、ゼミの進め方を変えているのだと言う。

「例えば、この3年次の学生には、帰国子女や外国に関心のある学生が多いので、海外からのゲストを頻繁に招いて、英語で議論する機会をつくるようにしています」。

春学期にはオーストラリアとスコットランドから、教員や学生を招いて交流した。テーマは「スポーツ賭博」。スポーツという共通のテーマを通じて、それぞれの国の考え方を紹介し、議論を交わすことで、様々

な学びにつながった。自国の社会や文化を見直すきっかけになり、同時に異なる価値観への理解と関心が深まってきた。英語が下手であることはむしろメリット。一生懸命に英語でプレゼンをし、ホスピタリティを示すことで、学術的な交流にとどまらず、心の交流につながった。こうした経験を経て、川井ゼミ生の中から、海外に関心を持つ学生が一気に増加したという。他方、海外からの学生の口コミで、ぜひ川井ゼミに参加したいと申し出てくる等、交流の輪が広がっているようだ。

「ゼミの活動の中で、責任が伴う自由を満喫してほしい。学生にこうしたいという意思があれば、それをゼミの活動にどんどん反映させていきます。私は面白そうだと思ふ企画を提案するだけ。その提案が学生らの好奇心を刺激するものであれば、彼らがそれをさらに面白いものに仕上げていく。そこに新しい発見や展開、そして時に感動が生まれるのです」。

失敗の中にこそ、学びがある

川井教授の専門はスポーツ法政策。ゼミでもプロスポーツ選手の契約や移籍の問題、スポーツ事故の補償、ドーピング、八百長といったスポーツの分野で法に関わる問題を取り上げて議論している。そのため、スポーツに打ち込んできた学生が多い。

仲田直人さんは、高校時代、甲子園に出

場した。井手

善信さんは水

泳部で、許瑛俊

さんはサッカー

部。高橋真子さ

んはバドミン

トン部に所属

し、浜野未佑さ

んはバレーボー

ルのサークルに

いる。スポーツ系

という意味では、

スポーツ健康科

学部を選ぶとい

う道もあるが、

あえて政策学部

を選択したこと

にはそれぞれ

理由がある。

今、留学を志

望している仲田

さんは「大学に入ってから

の選択肢をたくさん残しておきたかったの

で、政治・経済等幅広く様々なことを勉強

できる政策学部には、許さんも「いろいろな

方向から物事を見て、価値観を広げたいと

思っている」。

そうして入学した政策学部で、自ら選ん

だ川井ゼミ。そこで一番身についたことは、

プレゼン力だと井手さんは言う。「人前で



話すのは得意な方ですが、プレゼンのうまい人が多いこのゼミはやはり刺激になります。どうしたらわかりやすく伝わるか、みんなの反応を見ながらいろいろと考えるようになりました」。考えるという意味では、「先生がよくおっしゃっている（物事を斜めに見る）という力がついてきたと思います」と言うのは高橋さん。「人の意見や情報をそのままのみにするのはなく、『本当にそうかな』と疑問を持つてみる。私たちは問題解決力を学んでいるので、まずその前提となる問題の本質を見極めることができな」と。

「チャレンジすることの大切さを学んだ。重要な役目を任せられる中で、成長できた。」と浜野さんが言うように、川井教授は「失敗を恐れてチャレンジしないことが、このゼミでは一番評価されません。ゼミ生の個々のチャレンジが周囲に刺激を与える。それが、ともに学ぶ大きな意義だと考えます。チャレンジには失敗がつきものです。これはスポーツと全く同じ。その失敗に謙虚に学ぶことが次の成功につながるという価値観を共有したいのです」と語る。

「勝負をかけて転んでも、そこから起き上がる過程にこそ、貴重な学びがある」と話す教授の言葉に、大きくうなずく5人が印象的であった。

川井教授とゼミ生がスポーツの暴力・体罰問題について一緒に考え、議論を交わす動画を公開中。
<http://ci.doshisha.ac.jp/manabi/kawai.html>

犯罪予防論を先導する日本初の 犯罪学専門の研究・国際交流拠点

犯罪学研究センター
川本 哲郎【法学部教授】



2014年版「犯罪白書」によると、近年、初犯者や初入者(初めて刑務所に入る)が減少傾向にある一方、検挙人員に占める再犯者や、刑務所入所受刑者に占める再入者の比率は上昇傾向にあるという。こうした情勢下で、国は2012年に犯罪対策閣僚会議が決定した「再犯防止に向けた総合対策」を受け、再犯を抑止するための各種研究を推進している。その中、2010年4月、わが国初の犯罪学専門研究機関として誕生した「犯罪学研究センター」は、5年間の基礎研究を踏まえ、今年4月、再犯防止を含めた「犯罪予防論の多角的研究」をテーマに再スタートした。新たに認められた設置延長の期間に、どのような研究を行い、どんな成果を目指すのか。2代目のセンター長である川本哲郎法学部教授に聞いた。

ケンブリッジ大学犯罪学 研究所をモデルに創設

日本の刑法はドイツの影響が大きく、研究者の多くはドイツに留学していますが、同志社大学は大谷實先生をはじめ、その一番弟子である瀬川晃先生もイギリスに留学されており、伝統的にイギリス刑法の影響を強く受けているのが特色です。瀬川先生が留学されたケンブリッジ大学には、犯罪学研究所という機関があります。私も1996年に瀬川先生の紹介で、その犯罪学研究所に研究員として行きました。そのような背景から、大谷先生、瀬川先生、さらに川崎友巳先生らが日本にも犯罪学研究の核となる拠点が必要だと考え創設されたのが、日本では初めての犯罪学専門の研究機関「犯罪学研究センター」です。2010年4月、司法研究科の三井誠先生を初代センター長としてスタートしたセンターの目的は、犯罪学に関する研究や国際交流の拠点としての役割を果たすことにより、わが国の犯罪学の発展に寄与するということでした。

三井先生がセンター開設から2年で定年により退職され、入れ替わりに法学部に着任した私が2012年4月からセンター長を務めています。センターの設置期間は5年ということになっていますが、今年度からは科学的研究費基盤研究Bとして「犯罪予防論の多角的研究」が採択されたので、新たに2年間の設置延長が認められました。

犯罪を防止するには 犯罪者を立ち直らせ 再犯を防ぐことが重要

犯罪を予防するには、犯罪の原因となるものを解明することが必要です。最初、それは科学の進展によって明らかになるものだろうと思われていました。解剖する、精神分析を行う、人類学的に研究する、様々な科学的な研究で全て解明されるだろう、解明されれば対策を立てることもできる、そう考えられていたのです。しかし、残念ながらそうはなりませんでした。瀬川先生が「いくつもの要因が複雑に絡み合い相互作用の中で増幅された結果である」と結論づけているように、犯罪はいろいろな要因が複雑に絡み合い、最後に何かの一押しがあつて発生するのです。

「原因の解明が難しいのであれば、犯罪を未然に防ぐ環境をつくる」、それが状況的犯罪予防です。防犯住宅の開発やコミュニティによる近隣監視等がそれにあたります。また同時に、犯罪防止には犯罪者を立ち直らせることが重要です。日本でもイギリスでも、刑に服した人が再び刑務所に戻ってくる例が半数以上に上ります。中には、刑務所に入っている間に悪事を覚え、出所してから新たな犯罪を犯すというようなケースさえあります。そのようなことから、刑務所の矯正機能は実効性があるのかという議論がありますが、逆に言えば半数は戻ってきていないわ

学際的活動、官学の協力、 国際化の推進を 今後のテーマに

けで、それをせめて7割くらいに増やすことができれば、かなりの犯罪予防につながります。国も今、法務総合研究所において再犯防止に関する各種研究を実施する等、再犯防止に向けた対策を進めているところです。

センターの延長期間では、今後の方向性を示す構想として、3つのテーマを掲げました。まず一つ目が学際的活動です。犯罪学は犯罪心理学もあり、非常に幅広い学問です。法学のみならず、精神医学、心理学、社会学、脳科学、経済学、経営学等、様々な分野の学問と連携して進めていくべきもので、同志社大学にはそれら全てがあり、スタッフもそろっています。まさに、犯罪学研究に適した環境にあると言えるでしょう。

二つ目は官学の協力。日本には科学警察研究所や法務総合研究所といった警察庁、法務省が

持っている犯罪捜査や犯罪研究の機関はありますが、大学との連携はほとんどありません。ケンブリッジ大学の犯罪学研究所では、国と大学の協働を進めており、日本でもその必要性が高まっています。セクションナリズムのハードルを越えて、国の研究機関と大学が連携していくための拠点としての役割を、当センターが担っていきたく考えています。

三つ目に挙げているのが、国際化の推進です。欧米の大学・研究機関との共同研究を進めるほか、重要テーマとして考えているのが東アジアの国々、特に中国・韓国との共同研究です。現在、大学の研究環境充実費の対象研究として、中国・韓国の研究者3人に加わってもらい、「東アジアの交通犯罪の予防」をテーマに研究を始めています。中国からは黎宏・精華大学教授と王昭武・蘇州大学教授、韓国からは呉貞勇・順天郷大学教授。3人とも留学生として同志社大学で学んだ経験を持っていますので、彼らに来自国の状況を比較・検討しながら研究を進めていく



【B】2008年に客員教授として中国人民大学に招かれ、講演した際の任命書
【C】川本先生の専門分野は刑法で、特に精神障害者の犯罪や交通犯罪を研究している

ことにしています。

国際化とは外国の経験に学ぶことです。外国で行われている犯罪抑止の実施例を参考にして、良い例を取り入れていく。中国や韓国は現在、交通問題に関しては日本より遅れているかもしれませんが、例えば性犯罪の対策については、日本より韓国が進んでいるように、今後、中国・韓国が日本を追い越していく可能性は、決して低いものではありません。

延長期間は今のところ2017年3月までですが、現在進めている研究成果を、センターのメンバーがそれぞれのテーマで論文として出していきます。中国・韓国との研究に関しては、来年度には同志社大学で国際シンポジウムを開催する予定です。いずれにしても、わが国唯一の犯罪学研究拠点として、この2年間で犯罪予防についての基盤研究を進め、わが国の犯罪予防論に先鞭をつけた



【A】2年前に北京師範大学で開催された第5回現代刑事法国際フォーラムでの一枚

来年度就職を目指す皆さんへ

豊かな人生のために 充実した学生生活を

就職を取り巻く状況

現4年生(2016年4月採用)から、就職活動スケジュールが変更となり、企業の広報活動の開始時期が3年生の3月から、採用選考活動の開始時期が4年生の8月からとなりました。ただし、経団連非加盟企業を中心にこの日程によらない企業も多数あり、今後日程が修正される可能性もありますので、注意が必要です。

このスケジュールの2年目となる今年度についても、キャリアセンターでは、10月中旬に第1回ガイダンスを開催し、3年生への就職支援を開始しました。そして2016年3月には、今出川に約700社、京田辺に約400社と全国の大学でも有数の規模で学内企業研究セミナーを開催します。この企業研究セミナーは、幅広い業界・地域の規模も様々な企業が、同志社大学生を採用したいと集まって来られますので、ここでできるだけ多くの企業の説明を聞き、志望業界や企業を的確に絞り込んでください。そのための準備として、自己分析、業界研究、仕事研究を深め、就職活動の方法を身につけてもらうために、第1回のガイダンス以降ほぼ毎日、セミナーや講座を実施しています。ここで大切なことは、自身のキャリアについて考

え抜くことです。自分自身を見つめ、個性を生かした就職活動をしてください。この準備期間をしっかり過ごすことが就職活動を成功に導き、将来自分自身が活躍できる場を見つけるために非常に大切となります。キャリアセンターでは学生一人ひとりの個性を生かすため、セミナーの他、個別相談にも力を入れていますので、積極的に利用してください。

現4年生の採用状況ですが、全般的には好調に推移していると見えています。リーマンショック以降「厳選採用」が定着してきましたが、景況感の改善等により、今年は「売り手市場」と言われています。しかし、一方で企業は基準を下げてまで採用しないと言われていきます。グローバルな経済環境の中で国際競争に勝ち抜くためには、企業の発展を支える次世代を担う人材を確保する必要があります。そのために「厳選採用」の姿勢を堅持しています。企業は単に数合わせで採用しているのではなく、「コアになる人材がほしい」と考えているのです。

一人で複数の内々定を得る学生がいる一方で、なかなか内々定を得られず、長期化を余儀なくされる学生もいるといった「極化傾向」がうかがえます。先輩たちの反省点として、2015年3月に卒業した本学学生の就職活動を終え

てのアンケート調査(左頁参照)を見ると、応募先選択段階での反省点として、「知名度にこだわりすぎた」が1位で「職種にこだわりすぎた」「勤務地にこだわりすぎた」と続いており、面接・試験段階での反省点としては、「志望動機があまりいい」「自己分析が不十分」「自己PRの不足」「SPI、一般常識の勉強不足」が挙げられています。「売り手市場」であっても、筆記試験の勉強不足、自己や業界・企業の理解不足、自分のイメージだけで就職活動を行ったことで苦戦したケースも見受けられます。消費者の目に触れない企業であっても業績を伸ばし、発展している企業は数多くあります。就職活動が長期化した学生も就職活動を進めるうちに自分に合った企業を見る視点が定まり、最終的には満足いく就職先を決定しているケースが多くありますが、目先の企業選びではなく、自分自身がどのような道を歩みたいのか、早い段階から働くという視点を持って考えてほしいと思います。

企業の求める人材

それでは、企業はどのような人材を求めているのでしょうか。経済産業省が、職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力を「社会人基礎力」

今年度就職活動をした

先輩からのメッセージ

(2015年度 就職に関するアンケートから)

- 文系男子 ◆就職活動では、自分自身に対して「なぜ？」を繰り返して問いかけてみてください。そのようにして自己分析や業界研究を行うことで、最終的に自分のやりたいことが見えてくると思います。また就職活動では「情報」が大事になると思うので、業界や企業のこと、面接や筆記試験のこと等について、OB・OG訪問や企業の個別説明会・セミナーへ足を運ぶことで、自分から「情報」を得ることが大切だと思います。
- (文) ◆まず、自己分析を行い、どのような環境ならば力を発揮しているのかを考えます。それを踏まえて、企業選びの軸を設け、企業の情報と照らし合わせていきます。このステップを踏めば、おのずと、自己PRとそれに基づいた志望動機ができていくと思います。企業の知名度にとらわれて企業分析を怠ると、選考が進んだ段階で、志望動機に苦しみます。(経済) ●文系女子 ◆初めての就職活動はわからないことが多く、不安だと思いますが、あまり周りの学生と比較しすぎず、自分のペースでやってください。就職活動は、自分を振り返る大事な機会です。だから、一人で全て行うのではなく、友人・ご家族・キャリアセンターの方々・先生知り合いに相談したり、自分について聞いてみたり、近況報告等をしてみてください。(心理) ◆最初から先入観で業界を絞りすぎるのも良くないですが、幅広く見すぎて志望動機の軸がぶれると就職活動が進みにくいです。3月中の学内セミナーとにかく足を運びましょう。合同説明会より学内セミナーの方が人事の方とよく話せるの

として提唱しています。「前に踏み出す力」(アクション)、「考え抜く力」(シンキング)、「チームで働く力」(チームワーク)の3つの基礎的な能力から構成されると定義付け、その3つの能力を主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、情況把握力、規律性、ストレスコントロール力の12の要素に区分しています。この12の要素のうち最も重要だと考えられる要素として、企業は「主体性」と「実行力」を挙げています。日本経団連が実施したアンケートによりますと、企業が選考時に重視する能力の1位は11年連続で「コミュニケーション能力」でした。2位以下は「主体性」「チャレンジ精神」「協調性」と続いています。企業が新卒の学生に求める力の平均値は、「コミュニケーション能力」を有しつつ、自ら主体的に行動し、実行する力」と集約できるでしょう。誤解しないでほしいのは、「コミュニケーション能力」は友人との会話ができたということではありません。様々な価値観を持った人たちの意見を傾聴し、その上で自分の意見を発信できる力が必要とされます。グローバル化が進展する中で、語学力を評価する企業が増えていますが、単に語学が得意なだけでは評価されません。社会人基礎力を備えた上での語学力が求められているのです。

充実した学生生活を

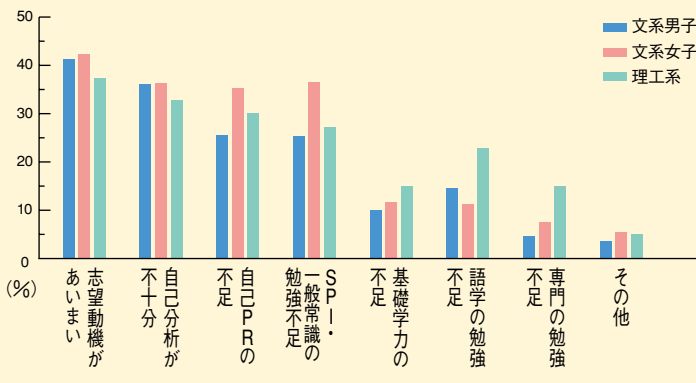
社会人基礎力を身につけるためには、何事にもチャレンジすることが大切です。授業はもとより、クラブ・サークルやボランティア活動、あるいはアルバイトを含め、自分の興味・関心のあるものを見いだし、それに真剣に取り組み達成感を

味わうこと、失敗や挫折を経験することが一回りも二回りも自らを成長させます。そしてそのような行動をとる中で、おのずと社会に向ける目も広がり、多くの人と関わることで「人間力」が磨きあげられます。様々な経験を積み重ねることが卒業後の人生を豊かにするとともに、そのような過程でいろいろな気づきをして成長した学生に企業は魅力を感じ、結果として、就職活動における評価にもつながります。漫然とした日々を送るのではなく、常に何かにチャレンジする充実した学生生活を送ってほしいと思います。

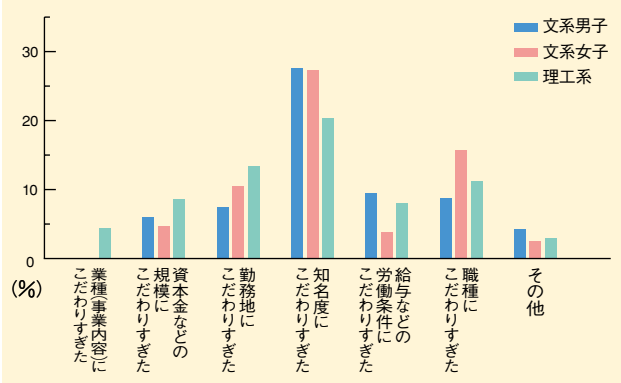
来年度就職を目指す皆さんへ

皆さんが就職する目的は、「社会での自立」「社会参加による貢献」「能力を生かした自己実現」ということになるかと思えます。そのためにはまず、自分自身を知ること(自己理解)が就職活動の第一歩となります。そして、自分のやりたいことがどのような職業で実現できるのか、自分の力がどのように職場で発揮できるのかを考えてください。それを考える手段として、学内セミナー、企業セミナーへの参加やOB・OG訪問等で幅広く情報を収集することが大切です。これらを経て、自分のやりたい職業、働きたい企業を見いだし、業務内容をよく調べ、「自分はどの会社でどのように働きたいか」を話せるようにしておくことがポイントです。採用担当者へ、面接等のやりとりから、熱意、主体性、コミュニケーション能力、問題意識や行動力を見極め、「一緒に仕事をしたい人物か」どうかを判断するからです。皆さんにとって魅力ある企業は必ず発見できるはずです。自分を信じて前向きに就職活動にチャレンジしてください。

面接・試験段階での反省点



応募先選択段階での反省点



でおすすめてです。(文)◆特にSPI対策と自己分析に早くから取り組むと就職活動はスムーズに進めることができ、かつ、結果につながると思います。思うようにいかず、落ち込むときもありませんが、そこで諦めない粘り強さと前向きさが肝心です。応援しています。(経済)◆自分が何をしたいか、どんな社会人になりたいかを明確に持つことが必要です。また、企業は貴重な採用枠の1つを吟味して与えます。そのため「そこに自分が入ったときに企業にどれほど貢献できるか」を熱意を持って伝えられるかが、最終的に内定をもらえるかどうかの分かれ目だと思いました。(法学研究科)●理系男子 ◆研究内容自己PR、学生時代に打ち込んだこと等、一般的な内容については早めに準備しておくと思えます。また、業界研究、企業研究、希望職種等についても就職活動が始まるまでにいろいろ調べておくこと、有意義な就職活動ができると思います。(理工学研究科)◆就職活動の中で心配なことがあるときはキャリアセンター等をどんどん利用して、不安を解消していきましょう。また各種講座に出ることで自分は今何が足りないかを見直す機会となるので、興味があれば積極的に学内の講座に参加しましょう。(理工学研究科)●理系女子 ◆自己分析は早めに行うことをお勧めします。私は1回限りではなく、就職活動中に感じたことを忘れないうちにノートに書き込むことで、自分が大切にしている価値観や譲れないものを明確にすることができました。また、終盤になると、面接が多くて企業研究をする時間がとれないので、会社に少しでも興味を持ったら早めに足を運んだ方がいいと思います。(理工学研究科)



アスリート食 プロジェクト 始動

10月1日から京田辺キャンパス紫苑館食堂で、アスリート食プロジェクトが始まりました。

このプロジェクトは、体育会クラブの選手たちに、練習後、速やかにバランスの取れた食事を提供することで、食生活の自己管理と身体づくりにつなげ、競技力向上を図ることを目的に、本学の体育会系OB・OG会で組織された同志社スポーツユニオンと学生支援センター、生活協同組合の協力のもと行われています。

メニューは、競技種目や運動消費量によって異なりますが、管理栄養士が計算したアスリートに必要なとされる栄養素がしっかり含まれ、バラエティに富ん



だものとなっています。

先立って行われた試食会に参加したサッカー部の選手は、「普段の夕食は炭水化物がほとんどで栄養バランスが偏りがちでしたが、このような食事は非常にありがたいですし、食生活を見直す良いきっかけとなります」と話していました。

現代のスポーツ界では、日々の食事が勝負を決すると言っても過言ではありません。健康的な食生活を送り、良い成績を収められることを期待しています。

このプロジェクトについて、詳しいことは同志社スポーツユニオン事務局にお問い合わせください。

(広報課)

平成27年 司法試験合格者発表

9月8日、本年5月に実施された司法試験の合格者が発表され、本学司法研究科(法科大学院)修了者の合格者は33人でした。法科大学院別合格者数では全国第14位、合格率は17.5%で、法科大学院別合格率では全国第20位となり、いずれも西日本の私立大学の中ではトップでした。これにより累積合格者数は461人、累積合格率は46.5%となり、ともに西日本私学では第1位です。この成果は、日頃の厳しい勉学に励んできた修了生の努力とそれを支えるスタッフの助力のたまものと言えます。

す。合格者の皆さんを心から祝福するとともに、本学で身につけた学識を糧とし、「良心を手腕に運用する」法曹として、世のため、人のため、存分に活躍されることを期待しています。



9月19日には、来賓等多数の出席者のもと、合格者祝賀パーティーを挙行了しました。当日は村田晃嗣学長の祝辞の後、氏名を読み上げられた合格者が壇上にと、会場は盛大な拍手に包まれました。水谷誠理事長の乾杯の発声で歓談に移ると、合格者は出席者より次々とお祝いの言葉をかけられ、合格者にとって栄えあるひと

きとなりました。

法科大学院を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況にありますが、同志社の精神である良心教育のもと、その薫陶を受けた法曹を一人でも多く輩出できるように、教職員一同、より一層力を尽くして在学生および修了生の指導にあたりたいと思っています。本学の皆さま方には日頃のご支援に心よりお礼申し上げますとともに、今後ともご理解とご助力を賜りますようお願い申し上げます。

(司法研究科)

■平成27年 司法試験 法科大学院別合格者数

順位	大学名	合格者数
1位	中央大学	170人
2位	慶應義塾大学	158人
3位	東京大学	149人
4位	早稲田大学	145人
5位	京都大学	128人
6位	一橋大学	79人
7位	神戸大学	72人
8位	明治大学	53人
9位	大阪大学	48人
10位	北海道大学	42人
11位	九州大学	40人
12位	名古屋大学	37人
13位	東北大学	35人
14位	同志社大学	33人
15位	法政大学	29人
15位	上智大学	29人



熊本キャンプを開催

同志社ゆかりの場所と人物を訪ね、同志社スピリットを感じ、学ぶことを目標とする「熊本キャンプ」を9月9～11日に開催し、16人の学生が参加しました。出発前のミーティングで、キャンプ中の企画等を計画するうちに学生たちの結束も徐々に固まり、キャンプ当日を迎えました。



初日は、ジェーンズ邸を訪れ、熊本洋学校の教育内容や同志社との関わりについて詳細な説明を受けました。その後、宿舎にて今回のキャンプにおける各自の目標を共有するプログラムを実施し、翌日訪ねるゆかりの地についての発表等を行いました。

2日目は、徳富記念園の見学、熊本草葉町教会での本学神学研究科出身の難波信義牧師による礼拝ののち、午後からは3つの班に分かれて同志社ゆかりの地や熊

本の名所を訪ねました。夕方には、古江隆明氏(ジェーンズの会会員)を講師に招き、「ジェーンズが行った『食』と『農』の改革」をテーマとした講演を拝聴し、同志社校友会熊本県支部の校友の皆さまとの交流会を開催しました。学生は出席者から当時の学生生活の話や伺う等親睦を深め、会の最後には出席者全員でカレッジソングを熱唱しました。

最終日、宿舎にて今回のキャンプでの取り組みを振り返り、花岡山の「奉教之碑」の前で奉教趣意書を朗読、各自がこれからの目標を発表し、プログラムは終了しました。

キャンプを終えた学生からは、「卒業後、長い年月を経ても母校を大切にする姿に感動しました」等の感想が聞かれ、おの充実した学びのときを過ごした3日間でした。

(キリスト教文化センター)

先端的教育研究拠点「赤ちゃん学研究センター」キックオフシンポジウムを開催

9月24日、京田辺キャンパス夢告館で先端的教育研究拠点「赤ちゃん学研究センター」キックオフシンポジウムが開催されました。本シンポジウムは2008年度に寄付教育研究プロジェクトとして設立

された赤ちゃん学研究センターが、本年度より先端的教育研究拠点として新たにスタートしたことを記念して開催されたものです。

まず、村田晃嗣学長より開会の挨拶があり、来賓を代表して河井規子木津川市長より祝辞が述べられました。続いて、センター長の小西行郎研究開発推進機構教授よりセンターの概要説明、松沢哲郎京都大学霊長類研究所教授が「人間とそれ以外の動物の赤ちゃんを比較する」と題し、基調講演を行いました。その後、加藤正晴研究開発推進機構教授による

センターの今後の研究計画の発表があり、ミニセッションとして、松田佳尚研究開発推進機構教授司会のもと、6人の研究者がそれぞれの専門分野の視点か

ら「赤ちゃん学」へのアプローチと期待について講演しました。

当日は研究者や企業の方以外に、保育士や理学療法士といった実際に「赤ちゃん」と接する現場で働く方や地域の方々にも多数来場いただき、多様な職種・年代の方からの関心の高さがうかがえました。全体では約130人の来場者があり、先端的教育研究拠点として大変良いスタートを切ることができました。

(研究開発推進機構)

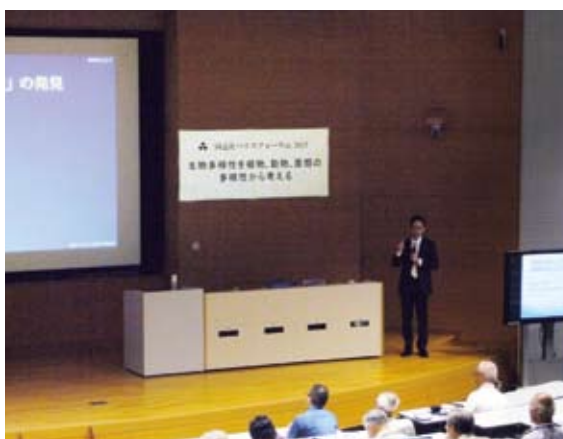
同志社ハリスフォーラム2015 「生物多様性を植物、動物、菌類の多様性から考える」

9月26日、京田辺キャンパスに88人の参加者を迎え、「同志社ハリスフォーラム2015」を開催しました。本フォーラムは理工学部の前身であるハリス理化学校開設に由来し、科学の進歩・普及を目的として、理工学部が主体となり毎年開催しています。

今年度は、地球温暖化等の問題に次いで関心の高まりをみせている生物多様性にテーマを決め、最近の生物多様性の保全研究についての現状を紹介していただきました。

松井正文京都大学名誉教授は、「種遺伝レベルからみた動物多様性」という演題





いての遺伝子の解析の成果を基にした新しい研究成果を紹介されました。

最後に、本学の光田重幸理工学部准教授が、生物多様性研究の実践について「生物多様性保全のためのコモンズ構築―水田稲作を中心に―」という題目で講演。この講演では、光田准教授が関わった実践的な生物多様性保全の実態を紹介しました。

生物多様性の題目のもと、植物、動物、微生物、水田を中心にした生態系の多様性に関する最前線の研究、さらに共通して生物多様性の保全への取り組みが紹介され、また多くの参加者が熱心に講演に聞き入る姿が印象的であり、実りあるフォーラムとなりました。

今回の題目は、「生物」についてのフォーラムでしたが、多くの方に参加いただいたことはフォーラム実行委員会のメンバー、大学院生、学部生にとって何よりの励みになりました。フォーラム終了後の懇親会では講演者との交流を深めることができました。

(同志社ハリスフォーラム実行委員長・理工学部教授 武田博清)

第1回同志社大学「新ビジネス」フォーラム 開催

本学では、首都圏の産業界の方々と、本学が研究資源を基に連携し、新技術新

産業の創出を促進することを目指して、2015年3月に同志社大学「新ビジネス」フォーラムを発足させました。

9月29日にその第1回フォーラムを開催しました。この催しは、3月10日のキットオフ・シンポジウムに続く、初めての例会です。当日は、首都圏の企業の方々51人にご参加いただきました。

はじめに、辻幹男副学長・研究開発推進機構長が開催の挨拶をし、渡辺好章生命医科学部教授がフォーラムの趣旨説明をしました。続いて、同フォーラムの座長として運営に携わる森下俊三ビジネス研究科特別客員教授（N.T.T.西日本シニアアドバイザー）（元N.T.T.西日本代表取締役社長）が座長挨拶をした後、シーズ発表に移りました。

まず、古賀智之理工学部教授が「生体に

学ぶ」スマート高分子材料「の開発」と題して、優れた強度や生体適合性を持つ蜘蛛の糸のナノ構造をヒントに独自の合成技術により開発した「自己修復機能材料」や、微小な環境変化を認識し正確に応答して形態変化する「かきいポリマー素材」等を紹介しました。

続いて、山本大吾理工学部助教が「微小空間で起きる化学の力を利用した」様々な動き」と題して、1mm以下の微小領域でポンプやモーターのように周期運動する微粒子や、界面化学力によってあたかも生物のように集団運動する水面に浮かぶ油滴等、微小領域での運動現象の数々を紹介しました。

最後に、塚越一彦理工学部教授が「微小領域で生じる」溶液の風変わりな挙動」と題して、毛髪のような細い管に溶液を流すと、管の材質に関係なく溶液成分が管の外側と内側に勝手に分かれる現象の発見と、その現象を利用した分析、診断および治療への可能性について紹介しました。

また、シーズ発表後に行われた名刺交換会では、講師と参加者との間で活発な情報交換、意見交換がなされました。

今後も、東京オフィスを会場に、本学の研究に関心をお持ちの企業の方々向けに定期的にフォーラムやシンポジウムを開催する予定です。

(研究開発推進機構)





本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

- 会社法**
白井正和 他著 有斐閣 1,900円
Whats'経済学第3版補訂版
八田英一 他著 有斐閣 1,900円
環境法のフロンティア
黒坂則子 他著 成文堂 2,400円
野村稔先生古稀祝賀論文集
洲見光男 他著 成文堂 20,000円
統計解析法入門
松島正知 他著 森北出版 2,600円
スポーツ産業論第6版
二宮浩彰 他著 杏林書院 2,500円
日韓政治制度比較
飯田健 他著 慶應義塾大学出版会 3,800円
日本人の国際移動と太平洋世界
和泉貴澄 他著 図書出版文理閣 3,200円
牧会の羅針盤
関谷直人著 キリスト新聞社 1,800円
国民なき経済成長
浜矩子著 KADOKAWA 800円
ケースで学ぶケーススタディ
高橋公行 他著 同文館出版 2,300円
初学者のための現象学
中村拓也訳 晃洋書房 1,400円
私たちの満州
イリナ・メリニツワ 他著 大阪大学出版会 2,100円
ベーシック条約集 2015年版
坂元茂樹 他編 東信堂 2,600円
メディア学の現在 新訂第2版
竹内幸絵 田口哲也 小黒純 遠藤徹 他著 世界思想社 2,300円
国際連送書類の歴史の変遷と電子化への潮流
長沼健著 文眞堂 2,500円
- リスク—不確実性の中での意思決定
中谷内一也訳 丸善出版 1,000円
ブリッジブック法システム入門 第3版
武藏勝宏 他著 信山社出版 2,700円
沖繩が問う日本の安全保障
秋林一子 他著 岩波書店 2,900円
ソーシャルワークの「日本モデル」研究
空閑浩人著 同志社大学社会学研究科 寄贈
映画で読み解く現代アメリカ
遠藤徹 他著 明石書店 2,500円
図書館情報資源組織論
佐藤翔 学芸図書 2,200円
講座日本茶の湯全史 第2巻
矢野環 他著 思文閣出版 2,500円
認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメント
石川信一 他訳 金剛出版 2,900円
会社法 第3版
伊藤靖史 他著 有斐閣 2,900円
国際関係私法講義 改題補訂版
高杉直補訂 法律文化社 3,700円
アジアのなかのジェンダー 第2版
富田安信 中村艶子 佐伯順子 他著 ミネルヴァ書房 2,800円
プレップ破産法 第6版
徳田和幸著 弘文堂 1,200円
企業家活動でたどる日本の自動車産業史
太田原準 他著 白桃書房 2,800円
「若者の海外旅行離れ」を読み解く
西村幸子 他著 法律文化社 2,500円
グローバルビジネス
コミュニケーション研究
佐藤研一 他著 文眞堂 2,500円
- よくわかる法哲学・法思想 第2版
濱真一郎 他編著 戒能通弘 他著 ミネルヴァ書房 2,600円
近代日本の対外認識 1
中谷直司 他著 彩流社 4,000円
会社法罰則の検証
川崎友巳 他著 日本評論社 5,200円
経済社会学キーワード集
森田雅憲 他編著 小島秀信 他著 ミネルヴァ書房 3,500円
憲法の基底と憲法論
大島佳代子 他著 信山社 24,800円
源氏物語の方法を考える
廣田收 他著 武蔵野書院 10,000円
自殺をケアするということ
木原活信 他編著 李善恵 他著 ミネルヴァ書房 2,500円
CFRPの成形・加工・リサイクル技術最前線
藤井透 大窪和也 他著 エヌティーエス 40,000円
社会政策の統計の見方と活用
久保真人編 久保真人 川口章 他著 朝倉書店 3,200円
論点詳解平成26年改正会社法
舩津浩司 他著 商事法務 3,200円
高分子トライブロジの制御と応用
平山朋子 他著 シーエムシー出版 70,000円
Power system transients
長岡直人 馬場吉弘 他著 CRC Press 寄贈
CFRPの繊維/樹脂界面制御と成形加工技術
藤井透 他著 技術情報協会 80,000円
コーポレート・ガバナンスの進化と日本経済
福田順著 京都大学学術出版会 3,200円

同志社大学 東日本大震災被災学生支援募金の事業終了について (ご報告)

2011年3月11日に発生した東日本大震災によって、本学でも多数の学生のご家族が被災されました。同志社大学では、同年から被災学生の学費減免を実施し、経済支援を行ってまいりましたが、あわせて被災学生の修学環境を整えるための義援金を募る「同志社大学東日本大震災被災学生支援募金」を開設し、2012年6月1日から卒業生、在学生ご父母、教職員等、各方面からのご寄付を募ってまいりました。この募金に対しては卒業生の皆さまを中心として支援の輪が広がり、募金開始から事業終了の2015年9月30日までのご寄付は延べ541件、総額16,114,023円となりました。この寄付金を基に被災学生には毎年給付金を支給することができ、4年度にわたる給付金の支給者

は延べ151名に上っております。本募金事業による給付金と大学の実施する学費減免措置の修学援助があいまって、募金事業開始当初の対象学生は順調に卒業・修了をすることができました。皆さまのご厚情に感謝いたします。

なお、寄付金の残額につきましては、募金主旨に鑑み、学費支弁が困難な学生に対する給付奨学金である「同志社大学特定寄付奨学金」に繰り入れ、その資金として有効に活用させていただきます。

改めて、ご支援・ご協力いただきました卒業生、在学生ご父母をはじめとした多くの個人・法人・団体の皆さまに深く御礼申し上げます。

(学生支援センター)

Ich studiere Japanologie und Amerikanistik an der Universität Tübingen. Teil des Studiums ist es 10 Monate an der Doshisha Universität am Tübinger Zentrum für Japanstudien zu lernen. Das Ziel ist, besser die japanische Sprache zu beherrschen und viel über die japanische Kultur zu erfahren. Außer dem Unterricht gibt es kulturelle Events, wie z.B. eine Teezeremonie im Stil der Urasenke, einen Besuch einer Grundschule in Kyotanabe oder den Besuch einer Bunraku-Aufführung in Osaka.

Ein Höhepunkt des bisherigen Studiums in Kyoto und eine große Ehre war es, dass ich zusammen mit einem Freund, einem amerikanischen Austauschstudenten, bei brütender Hitze, unter dem Jubel der zahlreichen Zuschauer, den großen berühmten Minami Kannon Yama des mehr als tausendjährigen, traditionellen Gion Matsuri an einem gewaltigen Seil ziehen durfte. Obwohl es sehr anstrengend war, war es unvergesslich, diese einzigartige Tradition zu erleben.

Ich kann jedem Studenten aus eigener Erfahrung nur ans Herz legen, unbedingt an einem Austauschprogramm zu teilnehmen. So kann man in Zirkeln, wie dem Koch- oder Filmzirkel, andere Studenten kennenlernen und zusammen Spaß haben. Auf diese Weise lernt man eine Menge über eine andere Kultur und reflektiert über die eigene, erweitert seinen Horizont und schließt Freundschaften fürs Leben.

Felix Schneider

私は、チュービンゲン大学で日本学とアメリカ学を専攻している。チュービンゲン大学の日本学科では、在学中に10カ月間、同志社大学にあるチュービンゲン大学同志社日本研究センターに留学することになっている。目的は、日本語の運用能力を上げることと日本文化を体験すること。同志社では教室での講義以外にも、日本文化を体験できるプログラムが用意されている。例えば、裏千家の茶道を体験したり、京田辺市の小学校を訪問したり、大阪に文楽を鑑賞に行ったり等だ。

この留学で今まで最高の出来事は、光栄なことに、千年を越える伝統的な祭である祇園祭に曳き手として参加できたことだ。友達、アメリカからの他の留学生と一緒に、照りつけるような日差しと蒸し暑さの中、たくさん見物人の声援を聞きながら、有名な南観音山の大きな綱を曳いた。体力的にはとても大変だったが、この特別な体験をしたことは忘れることができない。

私は他の学生にも異文化交流や海外留学をすることを心から強く勧めたい。私は、料理サークルと映画サークルで日本人の学生と知り合い、楽しい時間を過ごすことができている。留学は、他文化についてたくさん学ぶことができ、自分の文化についても再発見することができ、視野が広がる。また、一生続くような人と人の関係を結ぶこともできる。

フェリックス・シュナイダー

2015.4 ~ チュービンゲン大学同志社日本研究センターに在学
(ドイツ出身)

マツダ株式会社 常務執行役員

藤原 清志 さんに聞く

タンカーを動かした
タグボート

我部山●マツダに入社された動機はどういったものだったのでしょうか。

藤原●大学院に進みたいと思っていたのですが、勉強不足で願いがかなわず、ゼミの先生に推薦していただいたのがマツダだったのです。本当はもっと勉強したかったのですが、挫折してしまいました(笑)。

我部山●入社後はどんなキャリアを積んでいかれたのですか。

藤原●研修後の最初の配属は、商品企画の基礎設計部。基礎とついでに、商品企画だから技術的な知識はあまり要らないだろうと思って希望を出したら通ったのです。入ってよかったと思うことは、エンジンだけではなく、車全体の仕事ができる部署だったことです。そこで商用車の市場調査等を含めて大変幅広い仕事をして、車の面白さを再確認することができました。数年経って、ヨーロッパにR&D(研究開発)の拠点を置くということになり、募集に手を上げて第一期生としてドイツに赴きました。向こうには4年近くいて、帰国後は同

じ商品企画ですが、総合商品計画という全ての商品の長期計画をつくる部門に配属されました。どのような車をどのタイミングで市場に出していくかを考えるのですが、ここで商品企画や若手の処遇をめぐって上司と意見が衝突し、宇品工場へ3カ月間、応援に行くことになりました。このときには、自分のエンジニアとしての人生は終わったと思いましたね。

我部山●順風満帆で来られたと思っていたのですが、違ったのですか。

藤原●その後、復帰して最後のファミリア、初代デミオの商品企画を担当したのですが、その頃の私を見てくれたのが、アメリカのフォードから来ていた役員でした。そして、39歳だった私を2代目のデミオを開発する全社リーダー(主査)に抜擢してくれたのです。当時の最年少主査でした。しかも、このデミオはフォードとの共同プログラムで開発することに



インタビューアー

我部山 晃一 さん

「理工学部機械システム工学科 4年次生」



今回の同 志 社 人

藤原 清志 さん【1982年 工学部機械工学科卒業】

1960年生まれ。岡山県出身。1982年東洋工業株式会社(現マツダ株式会社)入社。2003年マツダヨーロッパGmbH.副社長、2007年パワートレイン開発本部長としてスカイアクティブテクノロジーの開発を統括、2008年執行役員、2013年常務執行役員、2015年4月より常務執行役員研究開発・コスト革新担当、R&Dリエンジ室長、株式会社マツダE&T代表取締役社長。

入れ替わっています。つまり、古い組織を完全に新しい組織に変えた。それもどこから連れてきたのではなく、そこにいたメンバーを入れ替えて新しい組織をつくりました。マネジメントとして最高に大変で、最高に面白い仕事でした。

我部山●チームをまとめ、成果を生み出す上で、人の力を生かすために大事なことは何でしょうか。
藤原●ビジョンをつくる、それを共有化することです。みんなが目標を共有し、高い志を持って、その実現に向かっていけるかどうかです。それができれば、必ずチームは一つになるポテンシャルを持ちます。ビジョンという遠い夢のように思ってしまうがちですが、そうではなくビジョンとは必ずいつの日か実現できる可能性のあるものなのです。実現するのは来年かもしれないし、20年後かもしれないが、ビジョンを設定して、それを共有化すると必ずみんなが一つになります。そうやってゴールに向かって少しずつ前に進んでいけば、必ず目標は達成できます。

我部山●私は大学でフォーミュラプロジェクトに加わっていて、今年の大会では前回より一つ順位を上げて4位にとどまりました。これから上上がっていくには、何が必要なのでしょう。

藤原●持っている能力をもう一度見極めることです。自分たちは何が強いのかを明確にして、その強さを基に戦略を立てるのです。強さを伸ばすこと、勝つためにはそれしかありません。自分たちは何が強くて、何を伸ばすのが一番いいのかを考えたときに、勝利は見えてくるはずですよ。

我部山●他の大学を見てあの大学はどこがいい等と、つい考えてしまいます。

藤原●マツダもどちらかと言うと他社の情報を欲しがる会社でした。それをやめて、自分たちは何が強くて、何がやりたいかを考えるようにしました。まず自分を決めてから他社を見る。それによって自分たちの強さがわかってきます。スカイアクティブテクノロジーがなぜ成功しているのかと言えば、みんなとは全く違うことをしているからなのです。それはとりもなおさず、自分たちの強みを生かした戦略なのです。

我部山●藤原さんにとって、仕事の楽しさ

なったので、私は1999年1月、イギリスにあるフォードの開発センターに、チームのメンバー30人を連れて乗り込みました。イギリスでの1年間は大変でしたね。それまでは、マツダのモノづくりの技術力を基盤に、われわれがフォードの車をつくらせていたのですが、このプログラムはフォードがエンジニアリングをし、われわれはそれに対して自分たちの要求を入れていく。それまでとは全く逆の立場になったのです。販売台数は向こうが10倍以上。こちらが要求しても、なかなか受け入れてもらえません。ぶつかり合いながら何とかやり遂

げたのですが、残念なことこのデミオはあまり売れませんでした。ただこのとき、フォードの役員から「お前はフォードという巨大なタンカーを動かしたタゲボートだ」と言われたのはうれしかったですね。

勝つために必要なのは
自分の強さを伸ばすこと

藤原●そして、2007年1月にパワートレイン開発本部長になります。このとき、本部長の下の部長が8、9人いたのですが、4年後の2011年1月に私から次の本部長に引き渡すときには、部長は全員



【INTERVIEWER】

かべやま
我部山 晃一さん

理工学部機械システム工学科 4年次生

兵庫県出身。「同志社大学フォーミュラプロジェクト(D.U.F.P)」OB。「モノづくりがたくて」機械システム工学を選択。パイプコンベヤーベルトと呼ばれる、ベルトコンベヤーを円筒形に丸めたものについて研究。卒業後はエンジニアの道へ進む。

高い志を持って、
決めた道を真っすぐに進め

とてもいいお話を伺えて、楽しい時間でした。高い志を持って決めた道をひたすら進むことが成功につながるという藤原さんの言葉が、とても印象に残りました。大学に入って学生フォーミュラに関わり、楽しいことばかりではありませんでしたが、続けてきたからこそ今があるのだと改めて感じます。自分の強みを見つけて、それを磨いていくということは、今後、自分自身が成長していくためにも、忘れないでたいです。自分を見つめるのは難しいことですが、これから自分なりにどうありたいのかをしっかりと考えて、来年春からの社会人生活を楽しくしていきたいと思っています。学生フォーミュラで勝つためのアドバイスは、しっかり後輩に伝えておきます。

はどんなところにありますか。

藤原●仕事は楽しくないですよ。ですが楽しむことはできるのです。私がよく言うのは、エンジン・ハードワークということ。とにかく与えられた仕事をどうやれば楽しくできるか、楽しむことができるかを考えなさいと。いろいろな経験をしてきましたが、いつも楽しむようにやってきたというのが事実です。

先輩に教えられた本質を
見抜く力

我部山●藤原さんの今の一番の夢は何ですか。

を盛大に開くことです。そのことを私は、2009年のマツダ・ビジネス・リーダー！デイベロップメント(MBLD)という、年一回、目標を表明し共有化する大会で語りました。この年はリーマンショックがあり、スカイアクティブテクノロジーもまだ世に出ていなかったの、ハイブリッドカー(HV)と電気自動車(EV)でなければ生き残っていけないと言われていました。経営状態も悪く、みんなが疲弊して気持ちが落ち込んでいたときでしたから、新たなビジョンが必要だと思い、「2020年の100周年を広島島の地でファンに祝ってもらいましょう」と言ったのです。そのためにはもう一世代進んだ、驚きの商品をつくり、地元の人たちに愛される企業にならないといけません。

我部山●大学時代のことも伺いたいのですが、何か思い出に残っていることはありますか。

藤原●テニスとスキーとアルパインに明け暮れた4年間でした(笑)。でも、友人には恵まれました。特に4年次のゼミのとき、研究室の先輩方に本質を見抜く力を教えてもらったことは、今でも感謝しています。振り返って考えると、同志社大学の校風が私には一番合っていたと思います。自由闊達な雰囲気があったし、同志社大学を選んだのは大成功でした。

我部山●最後に、後輩たちにメッセージをお願いします。

藤原●夢、ビジョン、様々な言葉がありますが、大事なものは必ず自分がこうありたいという思いを持つことです。いろいろな障害があっても、志を高く持ち、楽しもうとする心があれば乗り切ることができます。それを持つていれば、必ず自分の夢は実現できるし、ビジョンは達成できると思います。

我部山●伺った話を肝に銘じ、志を持って頑張りたいと思います。本日はありがとうございました。



出来ること、やりたいこと、自分の成長が 交わるところ。大事なのは自らの志。

就職活動をしていたとき、私は自分の中に3つの基準をつくっていました。国際的な仕事ができる、自己成長ができる、広くいろいろなことを経験できる。それらの条件に当てはまる会社を、ということで入社したのが総合商社の日商岩井株式会社でした。

ところが、入社2年目からニチメン株式会社との合併作業が始まり、次の年に新しく双日株式会社としてスタート。最初に配属されたITソリューションチームでは合併に伴うシステム統合が主な仕事で、得難い経験をしたと思います。

その作業が終わった後に営業職を希望し、航空機のリース事業を担当する民間航空事業部へ異動しました。2年後には、双日が日本の販売代理店である関係から、米ボーイング社のマーケティング部門へ派遣。さらにその2年後、会社から学費滞り費用等のサポートを受けてMBAを取得する社内公募のプログラムに通じ、スペインのIESE Business Schoolへ留学しました。2011年に双日日本社に戻り、新規事業として立ち上がったばかりの再生可能エネルギー発電事業の開発・投資業務に従事。主にペルー、アメリカ、そして国内の太陽光発

電事業開発に携わりました。

この部署を最後に双日を退職しますが、そこには自分の中に芽生え、徐々に膨らんでいった社会貢献への思いがありました。きっかけは、2005年頃、活動家やアーティスト等、社会に対するメッセージを持つた方を支援する小さなコミュニティをつくったことです。イベントを開いてメッセージを発信する場を提供し、そこに人を集めて資金調達。さらに次のイベントを開催する活動を行っていました。IESE Business Schoolに行くことを決めた理由には、そうしたコミュニティ支援や社会貢献への寄与をビジネスとして行うための手法を学びたかったこともあり、教授から教わったことや学生が主催する社会的企業向けカンファレンスの企画・実行メンバーに加わり、社会的企業やそれらを支援する企業や団体との接点を持つたことは、非常に大きな学びとなりました。

双日退職後の2014年、LGT Venture Philanthropy (リヒテンシュタイン公爵家によって設立されたスイスに本部を置くインパクト投資機関)のアクセラレーター・マネージャーとしてフィリピンの社会的企業の経営

営支援を行い、今年6月から日本初の本格的ベンチャー・フィランソロピー組織であるソーシャル・インベストメント・パートナーズで働いています。ここでは社会性、革新性、事業性を兼ね備えた社会的企業に対して、中長期で資金提供と経営支援を行います。特に教育や若者の就労支援、女性の子育て支援、地域コミュニティの発展支援に重点を置き、社会的企業の活躍により社会的インパクトが最大化されるとともに、民間の資金や経営支援が豊富される社会を実現することが私たちのミッションです。

法人の理事は私を含めて8人いますが、現在、フルタイムで仕事をしているのは私1人。忙しい毎日ですが、就職活動を始めたときからずっと求めてきた仕事のやりがい、生きがい、ここには間違いなくあります。

田淵 良敬さん【2002年 商学部卒業】

一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ 専務理事/事務局長

神戸市出身。2014年、リヒテンシュタイン公爵家が設立した「LGT Venture Philanthropy」での仕事のためフィリピンに赴任する直前、商学部時代の同級生と結婚。「彼女のご両親に仕事のことを説明するときに、人生で一番緊張しました」と苦笑する。社会貢献を目的とした事業や社会的企業に投資し、運営面を含めて支援する業界は、日本ではまだ発展の緒に就いた段階。同業者も数少ないという。「業界発展のためには業種を問わずいろいろな方に協力してもらうことが必要で、そのような人たちを巻き込みながら業界をつくり上げていくのが次のステップ」と話す。後輩の学生たちには「自分にリミットを設けなくて、世界に羽ばたいてほしい。海外に出ると、それまでの自分の感覚では想像できないような価値観やスキルを持った人がたくさんいます。そういう人たちに出会って、自分の限界を広げてほしい。自ら進むべき道を切り開いてきた経験が裏打ちするメッセージは、心に熱く響く。

日本人としての誇りを持って、日本の国益のために力を尽くす。

現在、私が外務省で担当している業務は、途上国に対する文化無償資金協力です。対象国の文化振興や高等教育促進が主体ですが、特に日本語教育やスポーツの施設や教材を整えることにより、日本との交流、友好関係の促進を目的としています。また所属部署の仕事とは別に、通訳担当官として外務大臣等が外国の要人と会談する際の通訳も務めています。日本の国益を追求する重要なコミュニケーションに自分が介在していることはとてもやりがいを感じます

し、自分の言葉一つで発言者の意図を変えてしまいかねない責任の重さに、身の引き締まる思いがします。

外務省に入ると、1年間の本省での研修を経て、その後の2年間は語学研修で外国へ留学し、おのおのが指定された語学を磨くことになっていきます。私が選んだのはニューヨーク大学のロースクールです。その理由は、夏休みの2カ月間、ジュネーブにある国際連合の国際法委員会でのインターンができるからです。そこはまさに国際条約をつくっているところで、学生ときから関心を持っていた国際法がどういう形で条約として成り立っているのかを現場で見ることができたのは、とても貴重な経験でした。国際社会の縮図とも言える場所で、日本の立場や、その時その時の日本の国益を主張するような仕事に携わりたいという思いがより強くなりました。

入省して現在の部署に配属になるまで、多岐にわたる業務にあたってきましたが、最も心に残っているのは、2011年、東日本大震災のときのことです。北米局北米第一課にいた私は、アメリカとカナダからの支援受け入れの調整に関わり、震災直後は24時間体制で睡眠時間もほとんど確保できない日々が続きました。その中で世界各国から溢れるような支援が寄せられ、特に途上国からは「日本にはこれまでたくさん支援をしてもらった。今度は私たちができる限りのことをしたい」と温かい気持ちが届いたのです。これまでの日本の外交姿勢や途上国に対する支援が報われたと思

い、外務省員としても、一人の日本人としても誇りに感じた出来事でした。

私は同志社大学に入学しましたが、4年次の1年間は国内留学の制度を利用して早稲田大学で学び、公務員を受験するためスクールにも通いました。3年次までは念願だった京都で落ち着いた学生生活を送

り、最後の1年間は自分と同じ志を持っている仲間たちがたくさんいる環境に身を置きました。そこで

努力した結果、希望

する外務省に入省す

ることができたので

す。多様な学びの選

択が可能である同志

社大学には、今でも本

当に感謝しています。

後輩の皆さんも、志が

見つければ、それに向かって最大限の努力

をしてください。何かを得ようと思えば、

まずはそれに向かって全力を尽くすこと

が大事です。

外務省

中野 恵子さん【1999年 法学部法律学科卒業】

外務省 大臣官房文化交流・海外広報課 課長補佐

石川県金沢市出身。外務省で働くことを意識し始めたのは、小学校4年のときに親の仕事の関係でアメリカでの暮らしを経験したことがきっかけ。いろいろな国の子どもたちと触れ合い、国際社会を舞台にした仕事をしたと考えるようになった。大学時代にはアルティメットというフリスビーを使ったスポーツのサークルと、法曹界を目指す学生が多く集まる法律系サークル「同法会」の国際法研究会に所属。研究会の活動で国際法模擬裁判に関わり、「国益を守ることの難しさ、それに挑戦することで感じられるやりがい等、今の仕事に通じるものがありました」と話す。外務省入省後の研修では、1年間に及ぶハードなトレーニングで、日本人の生命・財産を守る外務省員としての心構えを学んだ。「その研修で男女平等というのはこういうことなんだと思い知りました。男性職員が朝まで寝ないで働くのなら、当然女性職員も同じように働く。そこに女性だからという配慮は、基本的にありません。それまでは女性であることで優遇されていたのだと気づきました。そのときの体験を思えば、大概のことは耐えられる、と笑う。

●3月4日(金)～6日(日)

全日本学生ボードセリング選手権大会大学対抗戦

会場：和歌山セーリングセンター

【ラグビー部】

●12月5日(土) 関西大学ラグビーAリーグ第7戦

会場：西京極陸上競技場(京都府) 12:00 対戦相手：天理大学

【レスリング部】

●12月5日(土)・6日(日)

西日本学生秋季リーグ戦 会場：堺市金岡公園体育館(大阪府)

●12月21日(月)～23日(水・祝)

全日本選手権 会場：代々木競技場第2体育館(東京都)

第26回 同志社京田辺 クリスマス燭火讃美礼拝

クリスマスはキリストの誕生を記念し、全ての人が愛と信頼によって結ばれる未来を待ち望む祝祭です。キリストの希望を象徴するキャンドルライトの光のもと、ともにクリスマスの礼拝を捧げましょう。皆様のご来場をお待ちしています。なお、礼拝では手話通訳が行われます。

【日時】12月12日(土)

開場16:00 / 開始16:30 (終了予定18:00) 入場無料

【会場】京田辺校地 同志社新島記念講堂(女子大学構内)

【お問い合わせ先】京田辺校地キリスト教文化センター

TEL:0774-65-7370

アドベント*礼拝

*アドベント(Advent)という単語は「到来」を意味するラテン語Adventus(=アドベントゥス)から来たもので、イエス・キリストの降誕を待ち望む期間のこと(今年は11月29日から12月24日まで)です。

●今出川火曜チャペル・アワー 17:30～18:10

神学館礼拝堂 12月1日、8日、15日、22日

●今出川水曜チャペル・アワー 10:45～11:30

クラーク・チャペル 12月2日、9日、16日、23日

●今出川金曜ランチタイム・チャペル・アワー 12:35～13:00

同志社礼拝堂 12月4日、11日、18日

●京田辺火曜ランチタイム・チャペル・アワー 12:35～13:00

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

12月1日、8日、15日、22日

●京田辺水曜チャペル・アワー 15:00～15:45

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

12月2日、9日、16日、23日

●京田辺金曜ランチタイム・チャペル・アワー 12:35～13:00

同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

12月4日、11日、18日

【お問い合わせ先】今出川校地キリスト教文化センター TEL:075-251-3320

京田辺校地キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

クリスマス・イブ礼拝

●今出川校地

クリスマス・イブ、小さな光をさがしに礼拝にお出かけください。

【日時】12月24日(木) 18:30～20:00

【会場】同志社礼拝堂 ※同志社教会のクリスマス・イブ礼拝と共同開催。

会場の都合で、満員になりましたら、入場をお断りする場合がございます。予めご了承ください。

●京田辺校地

楽しい歌とパフォーマンスでキリスト降誕を祝う礼拝です。新しい礼拝堂での初めてのクリスマス・イブをご一緒に。

【日時】12月24日(木) 16:40～17:30

【会場】同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

【お問い合わせ先】今出川校地キリスト教文化センター TEL:075-251-3320

京田辺校地キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

同志社 クリスマスキャンドルライトサービス

キャンドルの光のもと、皆さんで一つになって、イエス・キリストの誕生をお祝いしましょう。

【日時】12月23日(水・祝) 開場 17:30 / 開式 18:00

【会場】今出川校地 同志社栄光館ファウラーチャペル(女子大学女子中高構内)

【主催】同志社クリスマスキャンドルライトサービス実行委員会

【後援】同志社中高・女子中高・国際中高・香里中高 各校宗教部

同志社大学キリスト教文化センター・同志社女子大学宗教部

【お問い合わせ先】同志社女子大学宗教部 TEL:075-251-4141

第51回全同志社メサイア演奏会

今年で戦後の復活メサイア51回目です。クリスマスイブの夜、皆さまのご来場をお待ちしております！

【日時】12月24日(木) 開場 17:00 / 開演 18:00

【会場】京都コンサートホール 大ホール 【指揮】鈴木 秀美

【曲目】G.F.ヘンデル:オラトリオ「メサイア」

ソプラノ:松下悦子 アルト:福原寿美枝 テノール:小貫岩夫

バリトン:井原秀人 チェンバロ:井幡万友美 オルガン:高橋聖子

合唱:同志社メサイアコーア 同志社大学女声合唱団フルール

同志社クワイアクラブ メサイアシンガーズ

演奏:同志社交響楽団

【入場料】S席<事前座席指定>2,000円 A席<事前座席指定>1,500円

B席<当日座席指定>1,000円 ※B席のみ当日16:30より座席券交換

【チケット】

チケットぴあ TEL:0570-02-9999 <http://t.pia.co.jp> (Pコード276-628)

京都コンサートホールプレイガイド TEL:075-711-3090

同志社大学生協 京田辺ブック&トラベル TEL:0774-65-8376

良心館トラベル&サービス TEL:075-251-4433

※未就学児の入場はご遠慮ください。

2016年度
同志社ローム記念館プロジェクト募集

京田辺キャンパスの正門を歩いてすぐ右手にある「同志社ローム記念館」では、学生主体で企画・運営する課外プログラム「同志社ローム記念館プロジェクト」を展開しています。現在、2016年度に実施するプロジェクトを募集中です。採択されると、活動費が付与される、プロジェクトルームを使用できる等、1年間のプロジェクトを展開するにあたってのサポートを受けることができます。

あなたのアイデアをプロジェクトにしてみませんか?誰かに役立つものづくり、切磋琢磨できる仲間づくり、たくさんの経験を重ね有意義な1年を過ごしましょう。

詳しくは、ローム記念館webサイト(<http://rohm.doshisha.ac.jp/>)、館内設置の応募要項をご覧ください。

なお、本年度のプロジェクトの最終成果報告会は2016年3月5日(土)を予定していますので、興味のある方はぜひお越しください。

【プロジェクト活動期間】2016年4月5日(火)～2017年3月15日(水)

【エントリー締切】2016年1月18日(月) 17:00

【お問い合わせ先】ローム記念館事務室(京田辺校地総務課)

TEL:0774-65-7800 E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

今出川 定期キャンパスツアーのご案内

定期キャンパスツアーは土曜日に開催するキャンパスツアーで、通常よりも15分長い75分間、学生ガイドが学内をご案内いたします。通常は、見学いただけない建物など、定期ツアーならではの見どころも用意しております。平日にご参加いただけない方は、この機会にぜひご参加ください!今年度最後の今出川 定期キャンパスツアーを以下の日程で開催いたします。

【日時】12月12日(土) 10:30～12:00(ツアー開始の10分前までにご集合ください。)

【場所】今出川キャンパス正門(今出川通側)および西門(烏丸通側)

詳しくはキャンパスツアーのHPをご確認ください。

http://www.doshisha.ac.jp/information/c_tour/intro.html

【問い合わせ先】株式会社同志社エンタープライズ

TEL:075-251-3043 FAX:075-251-3289

A N N O U N C



WOT(ワット) = "What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員は全て無料 / 一般は有料

- 12月3日(木) 映画上映『サクラ花—桜花最期の特攻—』
10:45/13:30/16:00/18:30
料金:当日一般 1,300円、Hardience会員・学生・前売 1,100円
 - 12月4日(金) 特別編『ポーランド映画祭 2015』
15:30 『サムソン』1961年/118分/監督:アンジェイ・ワイダ
17:30 トーク:タデウシュ・アダム・オジユグ(NIPPO代表、同志社大学文学部講師)
19:00 『エヴァは眠りたい』1957年/99分/監督:タデウシュ・フミエルフスキ
 - 12月10日(木) THE DUO SESSION コンサート
【お問い合わせ】エースプロモート TEL:06-6341-1171
- 【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週木曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員は全て無料 / 一般は催しにより有料

- 12月1日(火) ダミアン・マニヴェル監督特集 *詳細未定
 - 12月8日(火) マティアス・ピニエロ監督特集 *詳細未定
- 【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

♪観に行こう聴きに行こう♪ —学生団体12月の活動予定—

【学内】

- 12月2日(水) 学生保健部会「献血」
京田辺 ローム記念館前 9:00~16:30 無料
- 12月3日(木) 学生保健部会「献血」
今出川 明德館西側 9:00~16:30 無料
- 12月3日(木) ピアノ研究会「アトリウムコンサート」
今出川 寒梅館アトリウム 12:30~13:00 無料
- 12月4日(金) KOREA文化研究会「日朝関係史講座」
今出川 至誠館1番教室 18:25~19:55(18:10開場) 無料
- 12月5日(土) コールフューゲル「定期演奏会」
今出川 寒梅館ハーディーホール 17:00~19:00 入場料500円
- 12月6日(日) ピアノ研究会「クリスマスコンサート」
今出川 寒梅館ハーディーホール 15:00~19:00(14:30開場) 無料
- 12月10日(木) 軽音楽部「定期コンサートデモ演奏」
京田辺 多目的ホール前広場 12:15~13:10 無料
- 12月13日(日) 雅楽会「第22回定期公演」
今出川 寒梅館ハーディーホール 17:30~19:00(17:00開場) 無料
- 12月16日(水) 喜劇研究会「お笑いライブ」
今出川 寒梅館クローバーホール 12:45~14:30(予定) 無料
- 12月19日(土) 混声合唱団こまくさ「定期演奏会」
今出川 寒梅館ハーディーホール 10:30~19:00(9:00開場) 無料
- 12月19日(土) フォーク・アライブ・クラブ(F.A.C)「12月定期演奏会」
京田辺 ハローホール 10:30~19:00(9:00開場) 無料
- 12月26日(土) 応援団「アトムフェスティバル2015」
今出川 寒梅館ハーディーホール 15:30~(15:00開場) 無料

【学外】

- 12月6日(日) 応援団吹奏楽部「第46回定期演奏会」
八幡市文化センター 14:00~16:00(13:30開場) 無料

- 12月12日(土) グリークラブ「第111回定期演奏会」
いずみホール 18:00~20:00(17:00開場) 入場料2,000円
- 12月13日(日) 混声合唱団こまくさ「第46回定期演奏会」
枚方市市民会館大ホール 15:00~18:00(14:15開場) 入場料1,000円

応援に行こう!~体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校等は変更されることがあります。

【アーチェリー部】

- 12月12日(土)・13日(日)・19日(土)・20日(日)
関西学生アーチェリーインドア選手権大会 会場:大阪大学
- 12月19日(土)・20日(日)
第20回関西学生アーチェリーインドア選手権大会 決勝
会場:大阪大学体育館(大阪府)

【自転車競技部】

- 12月5日(土) 全日本学生トラック・レース・シリーズ第6戦
会場:日本サイクルスポーツセンター(静岡県)
- 全日本学生ロード・レース・カップ・シリーズ

- 12月13日(日) 第11戦
- 1月10日(日) 第12戦
- 1月24日(日) 第13戦
- 2月21日(日) 第14戦
- 3月13日(日) 最終戦 会場:明治神宮外苑(東京都)

【柔道部】

- 12月6日(日) 京都学生柔道段別体重別選手権大会
京都学生女子柔道体重別選手権大会
会場:京都産業大学第二体育館 9:30
- 2月11日(木・祝) 京都府柔道選手権大会 会場:武道センター(京都府)
- 3月6日(日) 近畿柔道選手権大会 10:30

【水泳部】

- 12月6日(日) 関西学生冬季公認記録会 会場:京都
- 2月28日(日) 関西学生春季室内選手権水泳競技大会 アクアリーナ

【スキー部】

- 12月20日(日)~23日(水・祝)
全日本学生チャンピオンズスキー選手権大会
- 12月26日(土)・27日(日) 会場:北海道音威子府村
全日本クロスカントリー音威子府大会
- 2月20日(土)~24日(水) 国民体育大会冬季大会スキー競技会
会場:岩手県田山市
- 2月25日(木)~3月1日(火)
全日本学生スキー選手権大会 会場:秋田県鹿角市
- 3月3日(木)~9日(水)
全関西学生スキー選手権大会 会場:長野県野沢温泉

【卓球部】

- 12月19日(土)・20日(日)
オール西日本大学卓球選手権大会(個人の部) 会場:近畿大学
- 3月5日(土)・6日(日) 関西学連交流卓球大会 記念会館(大阪府)

【フィギュアスケート部】

- 12月5日(土)・6日(日)
国民体育大会冬季大会フィギュア競技予選会
会場:滋賀県立アイスアリーナ
 - 12月25日(金)~27日(日) 全日本フィギュアスケート選手権大会
会場:真駒内セキスイハイムアイスアリーナ(北海道)
25日 15:00~ 26日 13:45~ 27日 13:00~
 - 1月6日(水)~9日(土)
日本学生氷上競技選手権大会 会場:栃木県日光市
 - 1月27日(水)~30日(土)
国民体育大会冬季大会スケート競技会 会場:盛岡市アイスアリーナ
- 【ボードセーリング部】
- 12月5日(土)・6日(日) 関西選手権第三戦 会場:大阪北港マリーナ

「第4回カレッジフラ・コンペティション」

2015 ソロの部優勝

初めての競技会への挑戦で栄冠をつかむ



2015年8月、横浜で開催された「第4回カレッジフラ・コンペティション2015」で、ソロの部優勝を果たした都竹さん。初めての競技会への挑戦だったにもかかわらず、快挙を成し遂げた。

「ステージでは緊張しました。フラは笑顔が基本の踊りなので、それが一番難しかったですね。しかし、自分の踊りを評価してもらう機会はなかなかないので、楽しんで踊ろうと思えました。優勝したときは、とても驚いて信じられませんでした。」

フラは踊りの技術だけではなく、歌詞の意味や感情をいかに伝えられるかが重要。都竹さんは、審査員を務めたハワイのクム(先生)の一人から、「ただのモーションではなく、フィードバックで踊っているのがよかった」と、心のこもった表現力を高く評価された。

ソロ優勝の翌日は、都竹さんも参加した団体の部のコンペティションだったが、ソロ優勝の勢いに乗って、こちらも同志社大学のチームが優勝。チーム力も印象つけた。団体は、ソロとは違って群舞なので、全員で動きや表情をそろえるのが大事なのですが、10人が一体となって楽しく踊れたと思います。

フラとの出会いは、大学に入学してから。学内のフラサークル「Meahua Nohalani」

に入ったことがきっかけだった。「それまでフラを見たことがなかったのですが、友だちと

見学に行っていたいなと思えました。中高では、吹奏楽部だったので、今度体を動かすことをしてみようという軽い気持ちでした。吹奏楽もそうなのですが、大勢で一つのものをつくり上げていくのが好きで、一つの曲をみんなで仕上げていくのが魅力です。」

大学院に進んでからは、サークル時代の先輩が主宰するフラ教室「Kapanohala」に所属。現在は、初心者を対象にインストラ

クターも務めている。

「自分で踊るのと教えるのでは全く違い、どうしたらうまく教えられるか、どうしたら伝わるかと考えることが多く、フラに関わる時間がますます増えましたね。」

大学院では、第二言語を習得するための効果的な方法について研究しており、「教えることがテーマ。教える」ということは、たとえ自分の知っていることであっても相手に伝えるためにもう一度学び直し、頭の中で情報を整理することが大切であり、インスト

ラクターと重なる部分が多くあるという。

現在、フラサークル「Meahua Nohalani」は公認団体となり、約150人の大所帯。人気があります。高まる中、都竹さんは全国の大学生フラダンサーの目標となった。「よりフラに真剣に取り組もうという意識が芽生えました。1年後の同コンペティションでは、再び踊りを披露する予定なので、成長した姿をお見せできるように精進したいと思っています」と、輝くような笑顔で新たな決意を語ってくれた。

都竹 絢子 さん

文学研究科博士課程(前期課程)2年次生

